

<Photo>



↑カンボジア研修旅行に参加した生徒



↑アジア学院で飼育しているヤギ



↑カンボジアの村の子供たち

<GLP とは>

みなさんは GLP と言われるとどのようなイメージを思い浮かべますか？

正式にはグローバル・リーダーズ・プログラムと言い、グローバルな視点と課題解決力をもつ総合的人間力の育成を目的としたプログラムです。学年のグローバルに興味、関心がある生徒 40 人ほどで構成され、一・二年生は毎週木曜日の放課後、三年生は選択授業として GS（グローバルスタディー）と言う「世界について知る」ことを目標とした授業を受けています。他にも GLP セミナーや GLP セッションといったプログラムがあります。GLP セミナーは日本や日本文化を通して世界を知ることがテーマとなっている授業のことで、GLP セッションは大学教授や外部の講師の方に行っていただく授業のことで、GS の授業だけではなく、こういった GLP セミナーや GLP セッションからも沢山の学びを得ています。

そのうちの 1 つである、国際協力に関わった大学生たちとグローバルリーダーについて考えた授業では、言語よりもコミュニケーション力や多様性を受け入れることが必要という意見が出ました。皆さんがイメージするグローバルリーダーはどのような姿ですか？この 2 時間でそれぞれ自分なりの意見が持てるヒントになればと思っています。



活動報告

GSⅡ 2018

<授業内容>

～グローバル化～ (4/19・4/26)

グローバル化とは、人・もの・お金が国・地域という枠組みを超えて、活発に移動し、政治や経済、文化が地球規模で拡大する現象です。この授業では私たちの考え方や行動の関係性について学びました。

～グローバル経済と開発～ (5/10・5/24)

セネガルでは貧富の差や失業が問題となっており、中学校を卒業できる人は52%と言われています。これにより自国の開発が難しく、結局は輸入に頼ってしまっているのが現状です。そのため、先進国はそういった途上国への支援、また女性などの人権を守る法律作りと環境づくりが施される必要があると思いました。現状では、教育を受けられず、働き口がなく蓄財が困難になり、負のスパイラルが続いて起こってしまいます。これらの問題を解決するのはそう簡単なことではありません。

～難民問題～ (9/6・9/13)

難民の定義は、「迫害を受ける恐れがあって逃げる人」と1951年の難民条約で決まっています。しかし、仕事を求めて来る偽者の難民の存在があります。偽物の難民のせいで本当の難民が被害を被っています。そこで出た言葉がEvidence based policy making (通称 EBPM) 見えないものをデータ化するという意味です。しかし、データだけではなく、私たちの感性や想像力も重要となってくることを学びました。

～国際援助～ (9/27・10/4)

途上国で災害が起こった場合、先進国より被害が大きいことが多いです。私たちは、見返りを求めない途上国への援助こそがその国との結びつきをより強くするのではないかと思います。他人を自分に置き換えて考える、そのような思考が国単位でも重要になってくるのだと思いました。

～多文化理解～ (11/8・11/15)

国ごとに列の並び方や宣伝などに、文化や国ごとの状況が反映されています。これから私たちが社会に出ていくとき、他国の人々の文化を受け入れることの重要性を学びました。



(写真) 左：インド 右：ノルウェーの行列の違い

<一年間を通して>

2年間 GLP の活動を通して感じたことは学ぶことの大切さです。GLP の授業ではたくさんの先生方が発展途上国や世界の問題について教えてくださいました。私は授業の時に先生がおっしゃっていた、「自分たちは途上国の人に比べて力を持っている。それを有効に使うことが大切。」という言葉が印象に残りました。途上国に比べて学ぶ機会も環境も整っているからこそ私たちが世界のために何ができるか考えるのが大切だと思いました。

<カンボジア研修旅行>

(8/10～8/16、計16名)

私たちは観光名所の寺院アンコールワットや、現地の中学校や高校を訪れました。私が一番印象に残っているのは村の子どもたちとの交流です。その村は貧しく英語はほとんど通じませんでしたが、初めて会ったとは思えないほど一緒に笑い合ったり遊んだりすることができ、言葉を超えて伝えようとする大切さを改めて学びました。カンボジアでは約40年前にポルポト政権による虐殺が行われ、たくさんの人が亡くなった歴史があり、その時埋められた地雷を展示している博物館や人々が処刑された場所を訪れました。数多くの地雷が撤去されたそうですがまだ残っているところもあり、手足を失う人もいます。戦争が終わっても平和を取り戻すのは難しいということを実感しました。

<アジア学院>

(7/30～8/1、計9名)

私たちは化学肥料を使わない有機農業を外国から学びに来るアジア学院を訪れました。私の中で一番印象的だったのは、マラウイから来たベニータさんにインタビューをしたとき、「なぜ日本では農家は消極的に捉えられるのか、日本は外国からの輸入が多いのにそれが途絶えたら大変なことになるということを問題視しないのか」と聞かれたことです。一生懸命農業を学ぼうと家族を置いて日本に来た人にそんなことを面と向かって言われてショックでした。また、彼らと一緒にワークをこなしていくことでたくさん交流ができ、彼らの一生懸命さを知ることができました。とてもいい経験となりました。

About GLP



■講師の方による能と狂言の授業より
世界の文化だけではなく、まずは自国の文化も知ることが大切ということが分かりました。

What is GLP?

Global Leader Program の略です。関西学院高等部が2014年より文科省に認定されているSuper Global High School事業の核心となるプログラムです。SGHの目的は「グローバル化する世界のなか、国際的な舞台上で活躍できる人材を作る」ということが目的ですが、GLPはそこから一歩踏み込み、グローバル化により起きている様々な問題の解決を志し、実行していけるような特別な資質を持った「リーダー」を育てるプログラムです。

What we studied in GS I

1

国際

実際に海外に行き、教育支援をされた大学生の話を、聞く機会がありました。

2

開発

SDGsという持続可能な社会を作るための17の目標について、主に学びました。

3

文化

日本の伝統舞踊である能の事や、異文化理解でイスラム教について学びました。



Group discussions

GLPでは、グループで意見を共有する時間を大切にしています。



Presentations

講師の方のお話を聞いた上で特に印象に残ったことや自分のできることを考え、iPadなどを用いながら発表をしています。



Activities

実際に自分がその立場になったらどうするかを考えます。例えば写真では発展途上国のある街を再現しています。

GLP生の言葉

GLPの授業を通して、あるひとつの方向からではなく、多方向から物事を見ることができるようになりました。

例えば、災害が発生した時に、被災地には〇〇が必要だろうと考え、救援物資を送ったとします。しかし、実際には送った物ではなく、別のものが必要というケースもあるのです。良かれと思って行動しても、逆にそれが仇となることがあります。このような場合は自分の一方的な思い込みだけではなく、被災した人になった気持ちで考えて救援物資を送るべきなのです。世界には自分とは価値観や環境が違う、様々な人が暮らしています。自分と同じような立場の人ばかりを考えるのではなく、自分と反対側にいる人のことも考えて行動することが大切なのです。



JICA関西

Global Studyを受けていると今まで知らなかった言葉や世界の様々な国の地域について知ることが出来ます。

それらは今まで目に止まっていなかっただけで、テレビのニュースや新聞などで使われていたんだと気づくことがあります。そこからさらに関心を持って自ら調べることがありました。また、今まで知っていることでも新たに詳しく知ることによってその物事のイメージが変わることがありました。新たに知ることができ、様々な面から物事を見られるようになりました。

『入り口ではなく出口を』

これは私たちがJICA関西を訪問した際、実際にJICAの青年海外協力隊に参加された方のお話聞き、感銘を受けた言葉です。自分はこんな人間になりたいという目標を持つことが大切というメッセージは今でも心に残っています。自分に何が出来るかを考え続けることで、一歩を踏み出せるということ学びました。

Field work...Asian Rural Institute (アジア学院)

GLP生は、学内だけではなく長期休みなどに行われる外部で行われているプログラムに参加することができます。例えば、私は昨年の夏休みに栃木県にある**アジア学院**のフィールドワークに参加しました。アジア学院は発展途上国のリーダーが日本の農業を学ぶために来る場所で、彼らが母国に帰国した後、彼らの住む地域を発展させることが目標です。ここでは、最新の農業ではなく最適な農業を伝授することを目指しています。この概念はとても大切なことだと感じました。なぜなら、その国の環境や状況によって求めているものは違うと思うからです。私はこのプログラムを経て、農業の大変さ、またARIの学生のように「学びたい」という強い思いを持つことはとても大切なことだと感じました。これからは食べる前に食材が作られた背景まで思い浮かべ、感謝して、"いただきます"と言おうと心に決めました。農業のことを全く知らない私でも、楽しみ、沢山の発見、学びがあるプログラムでした。

